

## JENESYS2024 日本 ASEAN 高校生オンライン交流の記録 (テーマ：気候変動、エネルギー、環境)

### 1. プログラム概要

【目的・概要】ASEAN 諸国及び東ティモールの高校生（203 名）が、「気候変動、エネルギー、環境」に関する日本の施策や取組みについての理解を深めることを目的に、2024 年 8 月 20 日から 8 月 24 日までオンライン訪日プログラムに参加しました。参加者は、日本の次世代のエネルギー開発や環境保全活動等について、講義、視察や意見交換を行いました。また、日本人学生との交流や家庭訪問等を通じて、日本文化を体験しました。

【参加者・人数】ASEAN 諸国及び東ティモールの高校生 合計 203 名

(内訳) ASEAN 諸国 (インドネシア 20 名、カンボジア 16 名、シンガポール 12 名、タイ 19 名、フィリピン 20 名、ブルネイ 19 名、ベトナム 19 名、マレーシア 20 名、ミャンマー 20 名、ラオス 20 名)、東ティモール 18 名

【テーマ・訪問地】

グループ別：グループ A「気候変動」・宮城県、秋田県

グループ B「エネルギー」・北海道

グループ C「環境」・北海道

グループ共通訪問地：東京都

【日程】

■ プレ（事前学習）プログラム（来日までの指定期間）：【課題学習（動画配信）】

「家庭訪問体験」「南三陸町からのメッセージ」「愛知の魅力～産業、最先端技術～」「日本語」

■ オンライン交流プログラム：2024 年 8 月 20 日～8 月 24 日

8 月 20 日（火曜日）【日本理解講義】「日本の社会と文化」

講師：JICE 日本理解講義講師 アンドラディ 久美 氏

【グループ別交流、課題の確認】

8 月 21 日（水曜日）～8 月 22 日（木曜日）

3 つのグループに分かれ、グループ A は宮城県、秋田県、グループ B、C は北海道を訪問。

(1) グループ A「気候変動」

【講義】「気候変動による海への影響」

講師：南三陸・海のビジターセンター センター長 平井 和也 氏

【ディスカッション】、【学校交流】秋田県立由利高等学校、【家庭訪問】宮城県南三陸町

(2) グループ B 「エネルギー」

【講義】「日本のエネルギー事情」

講師：電気事業連合会 広報部 副部長 安田 宗浩 氏

【ディスカッション】【学校交流】市立札幌清田高等学校、北海道滝川高等学校、市立札幌開成中等教育学校

(3) グループ C 「環境」

【テーマ関連講義・意見交換】「地域と世界のつながり」～北海道の環境問題から考える～

講師：Co.DESIGN 有坂 美紀 氏

【学校交流】北海道滝川西高等学校、北星学園大学附属高等学校

8月23日（金曜日）【日 ASEAN 関係講義】「日本・ASEAN 関係」

講師：外務省アジア大洋州局地域政策参事官室 甲藤 岳史 課長補佐

【ワークショップ】プログラムを通じた学び、SNS 発信による共有、帰国後の活動の計画（アクション・プラン）

8月24日（土曜日）【文化体験】日本の風呂敷文化・多様な包み方

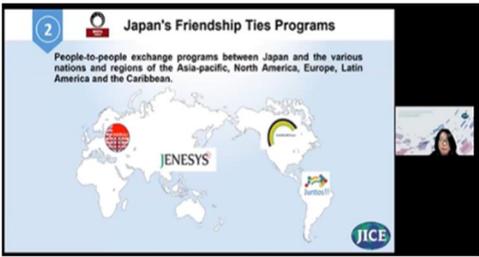
講師：True Japan Tour 株式会社 菊地 くに子 氏

【報告会】訪日成果、アクション・プランの発表

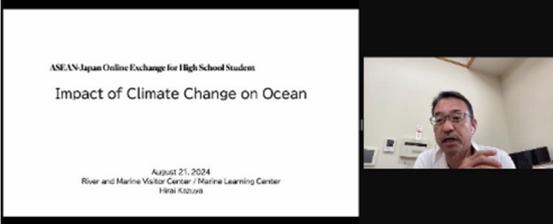
2. 記録写真

オンライン交流プログラム

グループ共通

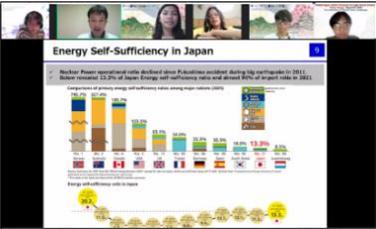
	
2024年8月20日【オリエンテーション】	2024年8月20日【日本理解講義】 「日本の社会と文化」

グループ A 「気候変動」（訪問地：宮城県、秋田県）

	
2024年8月21日【講義】 「気候変動による海への影響」	2024年8月22日【学校交流】 秋田県立由利高等学校

	
<p>2024年8月22日【家庭訪問】 宮城県南三陸町</p>	<p>2024年8月22日【家庭訪問】 記念撮影</p>

グループB「エネルギー」（訪問地：北海道）

	
<p>2024年8月21日【講義】 「日本のエネルギー事情」</p>	<p>2024年8月22日【学校交流】 市立札幌清田高等学校、北海道滝川高等学校、 市立札幌開成中等教育学校</p>

グループC「環境」（訪問地：北海道）

	
<p>2024年8月21日【講義】「地域と世界の関連」</p>	<p>2024年8月22日【学校交流】 北海道滝川西高等学校、北星学園大学附属高等学校</p>

グループ共通（訪問地：東京都）

	
<p>2024年8月23日【講義】「日本・ASEAN 関係」</p>	<p>2024年8月23日【ワークショップ】</p>
	
<p>2024年8月24日【文化体験】日本の風呂敷文化</p>	<p>2024年8月24日【報告会】</p>

### 3. 参加者から寄せられた質問（抜粋）

#### ◆ 日本理解講義について

- ・ 日本人はなぜ床の上で寝るのですか。
- ・ 日本を訪れるのに一番よい季節はいつですか。

#### ◆ テーマ理解講義について

##### グループ A「気候変動」

- ・ ASEAN 諸国で見られるようなサンゴ礁は日本でも見られますか。
- ・ 気候変動によりもたらされる日本経済への影響はどんなことが挙げられますか。

##### グループ B「エネルギー」

- ・ なぜ多くの国が原子力より再生可能エネルギーに力を入れているのですか。
- ・ CCUS<sup>(注)</sup>という技術があるにもかかわらず、なぜ私たちはエネルギー危機に直面しているのですか。

(注) CCUS : 「Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage」の略。分離・貯留した二酸化炭素(CO<sup>2</sup>)を利用するもの。

##### グループ C「環境」

- ・ マイクロプラスチックが問題となっていますが、スーパーではお菓子の包みなどでプラスチックがすでに使われています。どうしたらプラスチックの使用を減らすことができますか。
- ・ 日本政府はどのような気候変動対策を実施していますか。

### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### グループ A「気候変動」

#### ◆ インドネシア 高校生

気候変動に関する講義やアクション・プランの発表は特に印象深く、環境保全活動のための実践的な計画が提言され、自国においても同様の取り組みを実施したいと思いました。また、風呂敷文化は、伝統と持続可能性がうまく調和し、環境にもやさしい日本の習慣だということを知りました。

#### ◆ ミャンマー 高校生

家庭訪問は最も印象深いものの1つです。自然素材を利用した染物に特に心を奪われました。工芸そのもののレベルの高さとホストファミリーの伝統工芸に対する真摯な姿勢には目を見張るものがありました。

##### グループ B「エネルギー」

#### ◆ ミャンマー 高校生

学校交流では、日本人学生たちが発電に関するプレゼンをしてくれたのですが、その革新的なアイデアに感心しました。また日本は他国との関係をととても大切にしていることを知りました。日本人はその伝統・文化を大切に守り、それを日常生活に活かしていることも素晴らしいと思いました。

#### ◆ 東ティモール 高校生

学校交流では、学校のこと、日常生活のこと、そして自分自身のことなどたくさん話げできました。彼らが日本について話すのを聞いていると、とても興味がわき、いつか実際に日本に行って自分自身で経験してみたいと思うようになりました。

## グループC「環境」

### ◆ ミャンマー 高校生

最も印象的だったのは、北海道滝川西高等学校と北星学園大学附属高校との学校交流です。生徒が責任を持って学校を清潔に維持する掃除活動などは、日本の文化が環境配慮と深く結びついていることに驚かされました。このような文化的アプローチは、強い連帯感と規律を育みます。さらに、環境保全に特化したクラブ活動について学び、日本の若者が早い時期から持続可能性について積極的に取り組んでいるのがわかりました。加えて、これまで知らなかった国連の持続可能な開発目標（SDGs）を知ることができました。SDGsの目標が、世界的な取り組みの指針となっていることを理解し、学校の活動にどのように組み込まれているかを目の当たりにしたことは、驚きでした。また、日本の学生と、文化や環境問題について意見交換し、新たな視点を得ることができました。ミャンマーの学校でもプログラムで学んだ体験やSDGs学習を導入することで、若者の環境保全や持続可能な社会に向けた取り組み活動へ、積極的な参加を促進できると思います。

### ◆ ラオス 高校生

日本の文化と人々に感銘を受けました。特に日本人学生はとても礼儀正しく、マナーがよいです。そして友好的で、日本文化についてもっと知りたいと思わせてくれました。今回の国際交流で異文化理解を深めることができました。もっともっと新しい文化を学びたいと思いました。

## 5. 受入れ側の感想（抜粋）

### ◆ 講師（エネルギー）

海外の高校生へ日本の電力事情を説明する貴重な機会を頂きまして、ありがとうございました。答えきれないほどの数の質問を頂くなど、高校生の積極さに感心いたしました。海外の方への日本理解の一助になれば幸いです。

### ◆ 講師（環境）

講義に対する質問を多く頂けたことで、関心を持って話を聞いてもらえたものと嬉しく思いました。

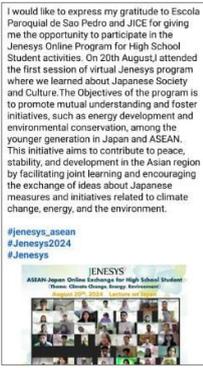
### ◆ 交流校生徒

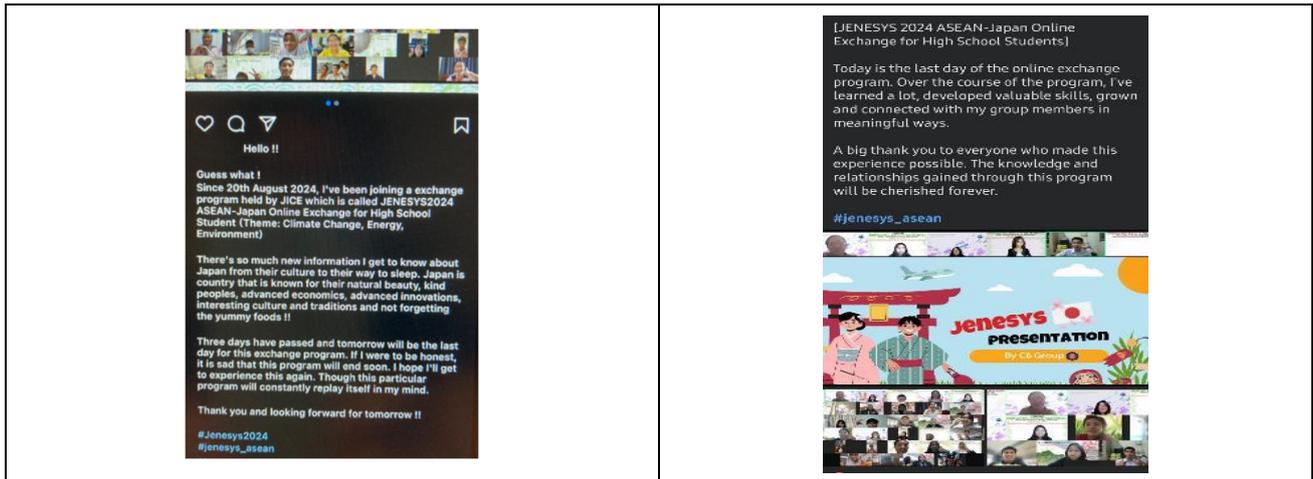
世界とのつながりを経験できたことで、外国に行ってみたいと思うと同時に、様々な国と関わってみたいと思いました。コミュニケーションをとれたことが楽しかったので、これから英語をもっと勉強して、上手く使えるようになりたいです。

### ◆ 交流校関係者

英語の授業とは違い、生きた英語を学ぶよい機会だったように思います。

## 6. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

<p>I would like to express my gratitude to Escola Paroquial de Sao Pedro and JICE for giving me the opportunity to participate in the Jenesys Online Program for High School Student activities. On 20th August I attended the first session of virtual Jenesys program where we learned about Japanese Society and Culture. The Objectives of the program is to promote mutual understanding and foster initiatives, such as energy development and environmental conservation, among the younger generation in Japan and ASEAN. This initiative aims to contribute to peace, stability, and development in the Asian region by facilitating joint learning and encouraging the exchange of ideas about Japanese measures and initiatives related to climate change, energy, and the environment.</p> <p>#jenesys_asean #Jenesys2024 #Jenesys</p> 	<p>JENESYS ASEAN-Japan Online Exchange for High School Student Theme: Energy, August 21st, 2024 The Federation of Electric Power Companies</p> 
<p>2024年8月20日（Facebook）東ティモール学生 このプログラムの目的は、日本とASEAN諸国の若い世代に相互理解を推進するとともに、エネルギー開発や環境保全などにおけるイニシアチブを育むことにあります。そのイニシアチブは、気候変動、エネルギー、環境分野における日本の対策や活動に関連付けながら、共に学びあうことによってアジア地域の平和、安定、そして開発に資するものです。</p>	<p>2024年8月21日（Instagram）ラオス学生 今日の出会いは素晴らしかったです。様々な国の人達とエネルギーについて話し合い、理解を深めることができました。気候変動、エネルギーそして環境について学びましたが、特に興味深かったのは、CCSやCCUSと呼ばれる技術で、CO<sup>2</sup>を排出せずに、CO<sup>2</sup>を捕まえて利用するというものです。またCO<sup>2</sup>を空気から分離し、それを地中に埋め、CO<sup>2</sup>排出量を削減する技術でもあります。</p>
<p>On the second day of the meeting with JICE members and students from ASEAN, we learned about a fascinating topic presented by Mr. YASUDA Munehiro, Deputy General Manager of the Public Relations Department. The theme was "The Federation of Electric Power Companies". We gained knowledge about energy in Japan, including how electrical energy is distributed in the country. Additionally, the S+3E concept was discussed in the "Overview of the Energy Market in Japan". I was personally happy to learn something new like that. 🙌</p> <p>#JICE_exchange #Jenesys_asean #Jenesys2024</p> 	<p>Being a part of this JENESYS ASEAN-Japan Online Exchange for High School program was an honor for me. I've gained a great deal of knowledge about Japanese language and culture, and it was enjoyable to study it with native speakers. Aside from culture, I've learnt a new angle on climate change: Impact of Climate Change on Oceans, which has the potential to generate far more problems than we can now foresee. I love the interaction we had with the host family and the Japanese students throughout that session. I'm excited to put all of this knowledge into practice and find it very helpful.</p> <p>#JENESYS_ASEAN</p> 
<p>2024年8月21日（Facebook）東ティモール学生 電気事業連合会の安田先生の素晴らしい日本のエネルギー事情についての講義がありました。どのように電気が送電されているのかについて、そしてS+3E<sup>(注)</sup>のコンセプトについても学びました。このように新しいことを学ぶことができ嬉しかったです。</p> <p>(注) 日本のエネルギー政策において、重要とされている考え方。安全性（Safety）が前提にあり、エネルギーの安定供給（Energy Security）、経済効率性（Economic Efficiency）、環境適合（Environment）を同時に実現するというもの</p>	<p>2024年8月23日（Facebook）タイ学生 JENESYSプログラムに参加でき光栄に思います。日本語や日本文化について多くの知識を習得したうえ、日本の学生と一緒に学べて最高でした。文化以外にも気候変動について新たな視点を得ました。気候変動がもたらす海への影響では、現在私たちが予測している以上の問題を引き起こす可能性があることを学びました。また、ホストファミリーや日本の学生と交流できてとても嬉しかったです。ここで得た全ての知識はとても役に立つものであり、実行に移すことを楽しみにしています。</p>



2024年8月23日（Instagram）マレーシア学生  
 2024年8月20日から、「JENESYS2024 ASEAN-Japan オンライン交流」に参加し、日本の文化や睡眠方法など、日本に関する新しい情報をたくさん得ることができました。日本は、自然の美しさ、親切な人々、先進的な経済、最先端の技術革新、興味深い文化や伝統、そしておいしい食べ物で知られている国です。またこの（プログラムの）ような経験ができることを願っています。

2024年8月24日（Facebook）ミャンマー学生  
 今日はオンライン交流プログラムの最終日です。プログラム期間中、私は多くのことを学び、貴重なスキルを身につけ、成長し、貴重なことにグループの仲間とつながることができました。このような経験をさせてくれた皆さんに心から感謝します。このプログラムを通して得た知識と友情は、一生の宝物になるでしょう。

日本・ASEAN諸国・東ティモール高校生オンライン交流を行いました【2024年8月22日】

「対日理解促進交流プログラム」に参加しました！

24次グループの4名が、8月22日の16時から18時まで、JENESYSの主催する「対日理解促進交流プログラム」に参加し、ASEAN諸国と東ティモールの高校生約60人がオンライン交流をしました。本プログラムは、アジアの半環と地域の安定・発展、そして相互理解の促進を目的としています。初対面の外国の高校生が英語を使った交流の場であったものの緊張は別荘でしたが、ジェスチャーも交えながら話が進み、楽しく交流することができました。東ティモールは7月の選挙後フェアトレードショップと視察したユーシーの産地もあり、また、ASEANに加盟するカンボジアは昨年1月に高田西校がボランティア実習で訪問するため、生徒はともに関心を持って交流に参加することができました。あっという間の充実した2時間のオンライン交流となりました。

2024年8月26日 市立札幌清田高等学校ホームページ掲載

## 7. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

グループA「気候変動」（訪問地：宮城県、秋田県、東京都）全6グループ発表

**ACTION PLAN**

Plan with **5Ws and 1H** (Who, what, when, where, whom, how)

Action plan title: **Simple ways that we do**

Target Audience: **Student like us**

- 1) separating different materials like glass, plastic, foam, cardboard boxes to different trash bins designed for each types of material.
- 2) Try to minimize the usage of air conditioners or set the temperature at 25 degrees celsius.
- 3) Grow plants in school or at home / back yard
- 4) Introduce others to Japan culture as a way of raising awareness to the climate change crisis.

**Climate Action**

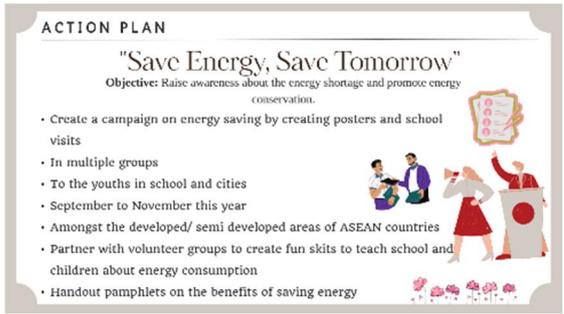
**What** the action plan is to create an advocacy campaign focusing on Climate Change through Radio Rakambia

**Who** The campaign involves the person who implementing the plan and all the interviewees who will share their insight and experiences

**To Whom** the advocacy effort is directed towards local communities and wider audience of Radio Rakambia who will benefit from the shared information

<p>■グループ：A2</p> <p>【成果の発表】</p> <p>1) 日本についての学び</p> <p>公共交通機関の充実、衛生、勤勉性等については、有名ですがその他に、文化や気候、日本人とその社会について視野を広げることが出来ました。</p> <p>2) 「気候変動」の学び</p> <p>一般的定義は知っていましたが、日本の海洋生物に対する影響や日本の施策の知見を深めました。</p> <p>【アクション・プラン】「環境保全アクション」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー全員が、他の学生と一緒にごみの分別を行う</li> <li>・エアコンの利用軽減を促進</li> <li>・学校や家で植物を育てることを促進</li> <li>・日本で得た学びを紹介</li> </ul>	<p>■グループ：A5</p> <p>【成果の発表】</p> <p>1) 日本についての学び</p> <p>日本の印象は技術と革新、自然美、産業等でしたが、プログラムを通じて、地理的な特徴、日本人や社会、文化のほか、食べ物や住宅といった日常生活についても知識を得ました。</p> <p>2) 「気候変動」の学び</p> <p>原因と言われていることや気候変動の負の影響について多少の知識はありましたが、主たる原因や日本の海洋生物における影響を学びました。</p> <p>【アクション・プラン】「気候変動アクション」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ局を通して気候変動に着目したキャンペーンを展開します。</li> <li>・メンバーは各自、WhatsApp や Instagram などのプラットフォームを利用して企画やインタビューを行います。</li> </ul>
---	--

グループB「エネルギー」（訪問地：北海道、東京都）全6グループ発表

	
<p>■グループ：B3</p> <p>【成果の発表】</p> <p>1) 日本についての学び</p> <p>訪日前：日本人は一般的に物静かで、電車等では周りへの配慮から騒がしく話しません。</p> <p>訪日後：ごみの分別によるリサイクル活動が浸透しています。日本は時間を厳守します。</p> <p>2) 「エネルギー」の学び</p> <p>福島第一原発事故については知っていましたが、今回のプログラムでは、事故後、原子力発電が減少し、風力発電等の再生可能エネルギーへのシフ</p>	<p>■グループ：B4</p> <p>【成果の発表】</p> <p>1) 日本についての学び</p> <p>訪日前：日本は、アニメ、和食、有名人、礼儀正しさ、そして人気の観光スポットというイメージ。</p> <p>訪日後：伝統を重んじると同時に新しい技術を取り入れる温故知新の精神があります。日本人は「がんばる！」という言葉をよく使います。日本の国土は南北に長いとため、気候は地域によって多様で、四季の違いがはっきりしています。</p> <p>2) 「エネルギー」の学び</p>

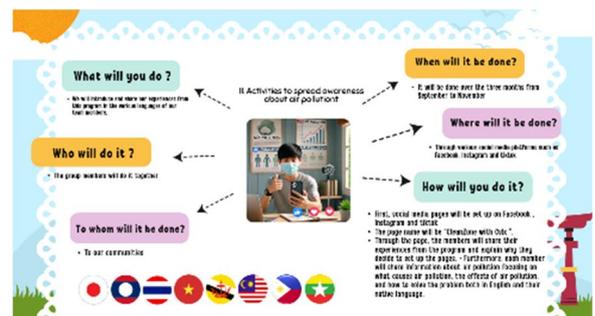
トが起こったことを学びました。日本のエネルギー政策の指針は、安全性を前提に3E(エネルギー、環境、経済効率)を推進していることです。日本のCO<sup>2</sup>排出の40%はエネルギー産業に起因していることや、総発電量が約1兆1100億kwであることも学びました。

- 【アクション・プラン】「ごみ分別リサイクル活動」
- ・学生によるプロジェクトチームを主軸とし、色分けした6種類のごみ箱を学校内の廊下やカフェテリア、屋外に設置し、ごみ分別の意義を伝えます(赤:金属、緑:リサイクル材料、黄:プラスチック、茶:有機ごみ、青:紙、黒:一般ごみ)。
  - ・地元リサイクル業者の協力も得ることを検討。
  - ・モニタリングを行いながら三か月間継続的に実施します。
  - ・期待される効果は、ごみ削減、省エネルギー、若者の環境意識の高まりと行動の変化です。

日本ではかつて石炭を用いた火力発電が主流でしたが、原子力発電も利用するようになり、福島第一原発事故前は、総発電量の30%を占めていました。日本のエネルギーの種類は複雑で、火力発電や原子力発電だけでなく、水力、風力、地熱、太陽光等を利用して発電しています。環境への配慮から近年は特に大きな変化が起こっています。

- 【アクション・プラン】「エネルギー保全、明日を守る」エネルギー不足についての認識を高め、省エネを推進します。
- ・ASEANで複数のグループを作り、今年の9月から11月にかけて、若者・子供に向け、ポスターやパンフレット等を用いて、省エネルギーの良さをアピールします。
  - ・ボランティアグループと協力して、学校を訪問し、子どもたちには寸劇などで楽しく省エネの大切さを伝えます。

**グループC「環境」(訪問地:北海道、東京都)全6グループ発表**



■グループ : C2  
**【成果の発表】**  
 1) 日本についての学び  
 日本は行動、言葉、表情がとても礼儀正しく、マナーも厳格です。とてもよく働き、時間を守ることをとても大切にしています。日本では、醤油、納豆、味噌等、多くの方法で大豆を食べています。  
 2) 「環境」の学び  
 主に生態系の持続可能性に関するSDGsに触れ、SDGsが、国際社会が設定した目標を達成するためのロードマップとして機能していることを実感

■グループ : C6  
**【成果の発表】**  
 1) 日本についての学び  
 日本の文化(名所、祭り、宗教)や環境問題、社会問題、そして外国人から見た日本ではなく、日本人から見た本当の日本について学びました。  
 2) 「環境」の学び  
 クリーンな国として知られる日本でさえ、環境問題に直面しています。環境問題が私たちの社会にとってどれほど重要で深刻な問題なのか、そして私たちはどのように協力して環境問題を改善して

<p>しました。また、このプログラムを通じ日本における学校の清掃活動や環境サークルなど、さまざまな事例に触れ、日常的な実践や地域社会への参加が果たす役割を学ぶことができました。</p> <p>【アクション・プラン】「健康的な環境生活の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康的な環境生活の概念を広めるために、学校やコミュニティセンターで教育イベントを開催します。</li> <li>・具体的には、私たちの環境がどのような状態にあるのか、どのように環境を保護することができるのか、プログラムからどのような結果が期待されるのかなどを説明します。そして、人間が環境に与える影響について、生徒や地域住民の意識を高めることを目指します。</li> <li>・また、各自で環境保全に関する意識を高め、持続可能な実践を促進するためのキャンペーンを実施します。</li> </ul>	<p>いくことができるのかを学びました。</p> <p>【アクション・プラン】「大気汚染の理解促進」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム経験を紹介し、大気汚染に対する認識を広める活動を実施します。</li> <li>・具体的には、Facebook、Instagram、TikTok にアカウントを開設します。名前は「Clean Zone with Csix」とします。</li> <li>・SNS を通じて、プログラムでの経験、なぜこのページを立ち上げようと思ったのか、各メンバーがプログラムから学んだこと、プログラム終了後、2 か月間の生活の中でそれをどのように生かしたのかを共有します。</li> <li>・また、このプログラムで最も印象に残ったことを、9月から11月までの3か月間、英語と母国語で共有します。</li> </ul>
---	--

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）